

国登録文化財（建造物） 平成29年6月28日登録

あい ち けんりつ おかざき こうとう がっ こうせい もんもん ちゅう きゅうあい ち けんりつ だいに ちゅうがっ こうせい もん
愛知県立岡崎高等学校正門門柱（旧愛知県立第二中学校正門）

員数：1基

所在地：岡崎市明大寺町伝馬1

所有者：愛知県

■登録基準

造形の規範となっているもの

■登録理由

花崗岩製の主門柱と脇門柱各2本からなり、西洋建築の意匠に、柱身部はこぶ出し仕上げで和洋折衷の特徴を示す。

■構造

石造、間口8.6m、南北脇柱付

■建設年代

大正前期／大正13年（1924）

昭和47年（1972）移設



正門 西から（愛知県教育委員会提供）

正門の歴史

正門は、旧愛知県第二中学校の2代目の正門であり、当初は校地のあった岡崎町戸崎に所在していました。その後、生徒数の急増により、現在の明大寺の場所に校地を求め、校舎を新築し、大正24年（1925）に全面移転が完了しました。その際、この門柱も明大寺の校地に移設しました。当時の正門の場所は現在の位置ではなく、校地の南側に設置され、その後の校舎の建て替えにより、昭和47年（1972）に正門は現在の位置に移設されました。

門柱の特徴

門柱は4本とも石造であり、主門柱の高さが3m22cm、脇門柱の高さは2m94cmです。

柱礎、柱身部、柱頭部の3つの部分からできています。西洋建築の影響を受けた洋風表現がされていますが、柱身部の表面は、四隅のみを平滑に仕上げ、中央部分を凹凸の多い状態に残す「こぶ出し仕上げ」であることから、和洋折衷の意匠が特徴です。表面に浮き出たこぶの部分は、日本の石工が用いる伝統的な仕上げ方法の一つである「荒のみ切り」と呼ばれる手法で処理しており、凹凸が比較的大きく、門柱背面には石を割った際にできる楔の跡がみられます。柱頭部は、西洋建築の特に古典系建築の軒蛇腹（コーニス）の如く正確に成形されており、西洋建築の意匠や知識が全国的に流布した時期の特徴を表しています。



南側主門柱の柱礎銘文 東から（愛知県教育委員会提供）

南側主門柱の柱礎石構内側には、「石匠 杉浦磯治」と刻まれています。この名前の「治」の下は舗装面で埋もれており、もう一文字刻まれている可能性もあります。岡崎高等学校の調査では、類似する氏名の石工として杉浦幾治郎（明治21年～昭和47年・1888～1972）という石工が岡崎市内に在住していたことが判明しています。

（本文：愛知県ホームページより抜粋）